

事故のない安全なまちに…

城陽市 市役所前でスタート式 交対協

春の全国交通安全運動が始まった6日、城陽市交通安全対策協議会会長＝橋本昭男市長と城陽署(加藤武署長)は市役所前でスタート

式を行い、事故のない安全なまちづくりへ心を一つにした。

会場には城陽交通安全協会、交対協、交通安全女性の会、城陽地域交通安全活動推進委員協議会、東部丘陵地交通安全対策協議会、市内各校区の高齢者交通安全防止推進委員協議会、そして芽生え幼稚園の園児ら約60人が集まり、民警一体となった活動を誓い合った。

式では橋本市長が「昨年は全国的に交通事故による死者が減少したが、市内では逆に1人増え、とくに11、12月に集中するなど誠に残念な結果となった。これまでも歩行者の安全確保のため歩道整備や踏切の改良、拡幅に努めてきたが、今後も交差点改良などに取り組んでいきたい」と挨拶。着任したばかりの加藤署

長も自己紹介を兼ね、交通事故防止に向けた思いを集まった人々に伝えた。

そのあと地域住民を代表して城陽地域交通安全活動推進委員協議会の梶村正也会長が交通安全宣言文を朗読。芽生え幼稚園の園児も

「交通安全ルールを守ります」と声を合わせて約束。城陽署のマスケット『ジョーくん』も初登場し愛嬌を振りまいた。

白バイ、パトカーなどの車両が一斉に市役所前を出発したあと、近くの府道城陽宇治線では早速、交対協の役員らがシートベルト着用啓発を行い、通行するドライバーらに安全走行を呼びかけた。



【市内パトロールに出発する署員を励ます関係者】